

(5)その他

①九州産交バス バス路線網再編計画について

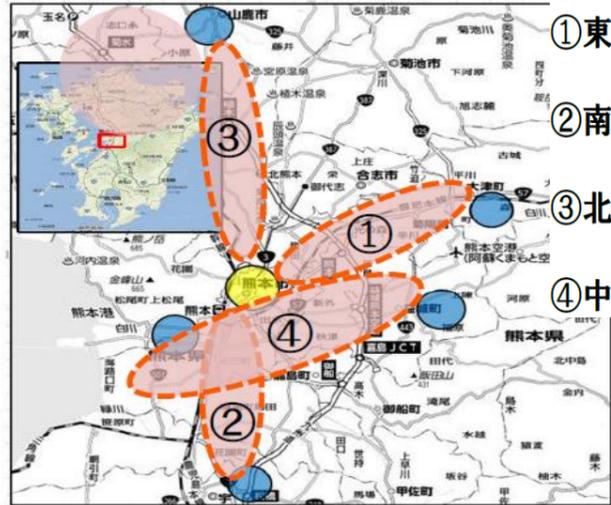
I 九州産交バス 路線バス事業の現状と熊本都市圏路線再編の概要

□路線バス事業の現状

【業績】H26年度 経常損益 ▲278百万円 (補助金を含めた経常損益)
 【課題等】軽油費の高騰・利用者の減少(車両老朽化・乗務員不足)など
 【現状】これまでも熊本都市圏のバス路線網を維持すべく、他事業(高速バス事業)の収益で赤字補填を行いながら安全性・利便性・収支改善へ向けた取組みを展開し事業運営を図って参りましたが、現状のままの路線網を維持していく事が困難な状況であります。

□熊本都市圏路線再編の概要

【考え方】地域公共交通活性化再生法に基づき、地域の特色を活かした再編(効率的で持続可能なバス路線網を構築)
 【概要】地域の実情と需要に応じた供給体系への転換と新規路線の策定(東部・南部・北部・中心部エリア(地域ごとの)取組みを展開)
 【重点施策】ゾーンバスシステム導入地域においては、乗継拠点を整備しながら待合環境を整え乗継割引などの負担軽減施策を十分に検討し、空白地域においては代替手段の提案・提供、新規のコミュニティバスや既存のコミュニティバスとの結節など、地域の利用者の声を収集しながら関係行政機関とも十分に協議・検討を行い、情報発信をして参ります。



今後も深刻化していく高齢化、人口減少などの地方都市が抱える大きな課題に対し、これからも住みやすく、暮らしやすい地域社会であるために、バス事業者として
(再編の意義)

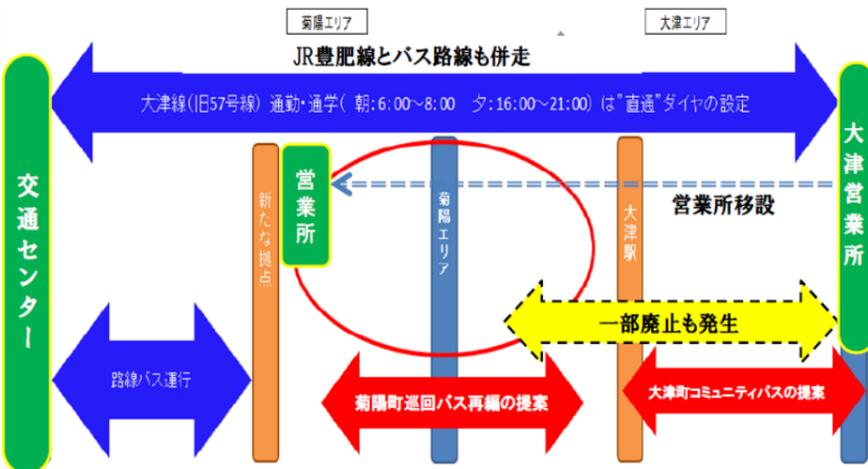
**効率的で持続可能な
バス路線網を構築する事**

自家用車の運転ができなくなったとしても、大多数の方が公共交通を利用し、気軽に移動できる地域の公共交通網を形成。

II エリア(地域)別 再編概要 (乗車実態に応じた運行形態への転換と提案)

①東部エリアの再編概要

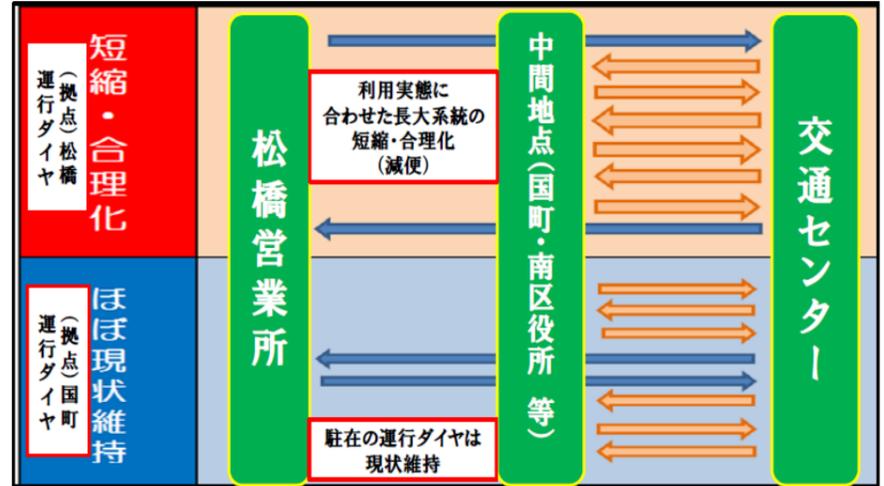
再編イメージ図



- ・路線網の合理化 (コミュニティバスとの結節・代替バスの提案)
- ・営業所移設、集約

②南部エリアの再編概要

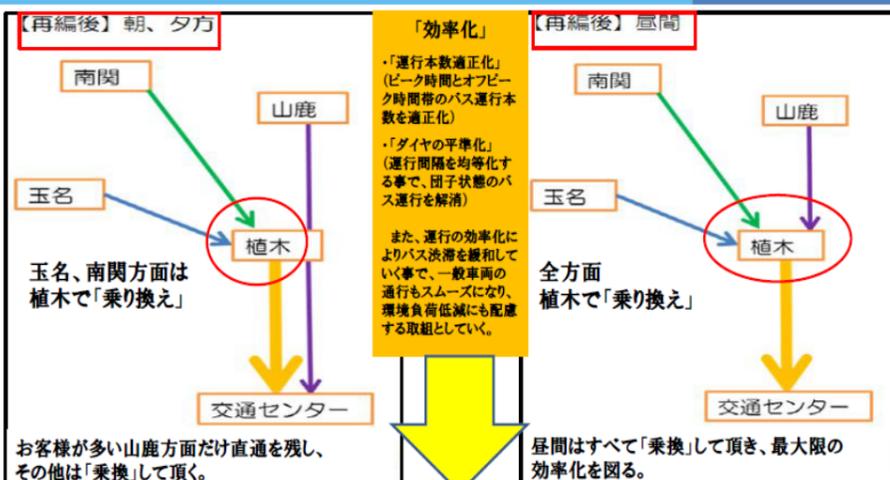
再編イメージ図



- ・需要に応じた供給体系への転換
- ・長距離系統の合理化

③北部エリアの再編概要

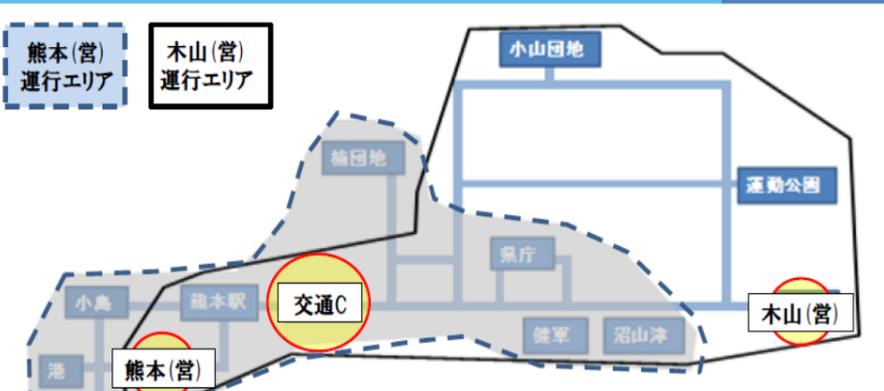
再編イメージ図



- ・ゾーンバスシステムの構築 (運行の効率化・バス渋滞緩和)
- ・利便性確保 (乗継拠点確保・待合環境の整備・乗継割引施策導入)

④中心部エリアの再編概要

再編イメージ図



- ・運行エリアの分割
- ・長大系統の分割化 (運行系統の短縮) (需要に応じた供給体系への転換) (定時性向上) (新規路線運行)